

AccessMatrix UCM

金融機関を中心に
多数の導入実績！

煩雑な特権IDの
管理にお困りでは
ありませんか？

非常に強い権限を持つ特権ID。しかし、その影響力の大きさにも関わらずセキュリティ管理システムに組み込まれていないケースがあります。

AccessMatrix™ UCMは、特権IDパスワードの申請/承認をWeb上のワークフローで実現します。申請/承認の履歴はすべてログとして保存され、監査レポートとして提供。多種多様なシステムの特権IDのパスワードを一元的に管理することによって、セキュリティと利便性を格段に向上させます。

AccessMatrix™ UCMの特長

■ サーバへの影響ゼロ

エージェントレスであるため管理対象となるサーバへの影響が全く無く、短期間での導入が可能です。

■ 自動パスワード変更機能

特権IDの返却時、または申請された利用期間が過ぎると、パスワードを自動的に変更します。

■ 自動ログイン機能*

承認された特権IDを使った自動接続制御を行うことが可能。パスワードをユーザに知らせない運用が可能です。

■ スモールスタートでコストを抑える

一部の特権IDから始めるスモールスタートが可能。コスト効率に優れ、管理対象IDの追加も短期間でできます。

■ 細やかな権限付与が可能

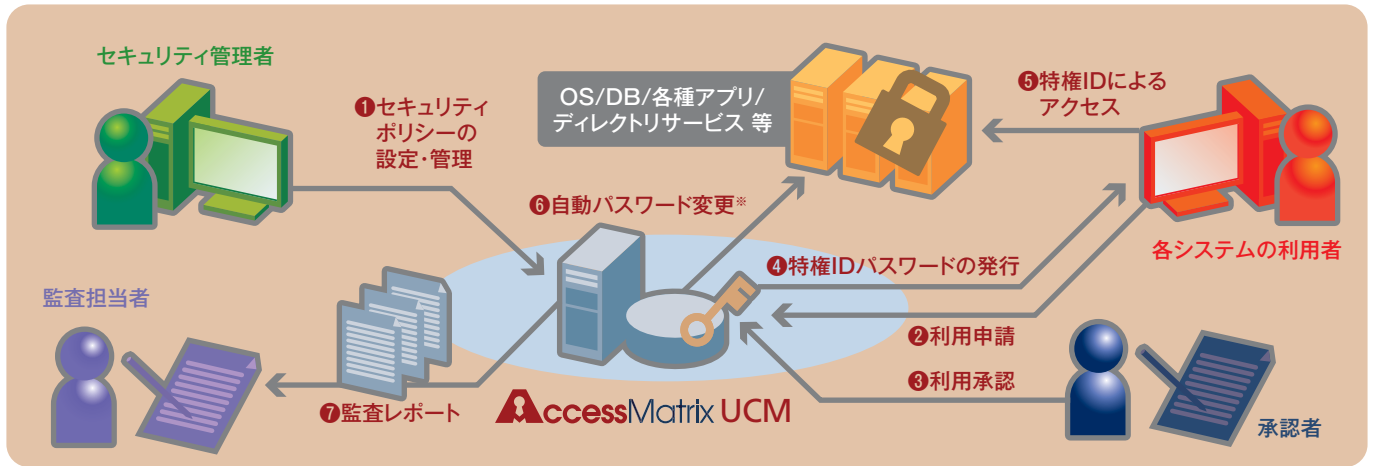
管理対象IDの特性に応じて、IDごとに利用者、承認者、管理者等を設定できます。また、多段階承認の設定も可能です。

■ 特権IDの操作を動画で記録*

特権IDによるオペレーションを動画で記録することが可能です。マウスの動きやGUIの遷移まで視覚的に確認できます。

※オプション

Webアプリケーションで提供される申請/承認ワークフローによって、特権IDのパスワードをセキュアに管理します。



※手動によるパスワード変更も可能

■ 特権ID管理フロー

申請 STEP1

Webワークフローにログインすると、現在申請できる特権IDが一覧で表示されます。使用したい特権ID、申請理由を選択後、申請ボタンをクリックします。

承認 STEP2

同様に承認者もWebワークフローにログインします。申請内容を確認後、承認または却下ボタンをクリックします。

特権ID情報の確認 STEP3

承認されると利用申請していた特権ID情報(ユーザID/パスワード)が表示されます。利用者はこれを使って目的の業務を行います。

パスワード自動リセット STEP6

特権IDの返却が完了したら、パスワードの自動リセットを行います。自動生成されるパスワードポリシーは細かく設定可能です。

返却と利用延長申請 STEP5

利用が終了したら払い出された特権IDを返却します。利用を延長したい場合は延長利用申請を行うことが可能です。

接続先への自動ログイン STEP4

特権ID情報を表示する代わりに、接続先サーバへ自動ログインさせることが可能です。この時利用者がパスワードを知ることはありません(オプション)。

※ AccessMatrixは、i-Print Innovations Pte Ltdの登録商標です。
 ※ その他の企業名や製品名はすべて各社の保有する商標または登録商標です

株式会社 ハイ・アベイラビリティ・システムズ
 ソリューション&コンサルティング事業部



〒108-0023
 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル2F
 TEL 03-5730-8870 FAX 03-5370-8619
 E-mail : inquiry_desk@ha-sys.co.jp
 URL : <http://sc.ha-sys.co.jp>